

遍路の里を行く

今春3月10日、11日。国土交通省の支援や松山市、東温市の後援で当NPO法人が世話役（主催）となり、観光モニターツアーを実施。広島、山口、愛媛で地域文化を資源とした地域づくりや観光振興に取り組む中国地方総合研究センター、広島経済同友会、宮島観光協会、岩国、呉の観光ボランティアグループの会長さん、しまなみグリーンツーリズム協議会、松山市、東温市、えひめ地域政策研究センターなど観光に携わる現場のリーダー25名が



坂本屋のスタッフといるりを囲んで話す参加者たち

# 広がる遍路の里づくり

～久谷地区の活動から～

NPO法人地域共創研究所NORA  
事務局長 黒田仁朗



参加した。

目的は「坂の上の雲」をテーマとしたワールドミュージアム構想のもと、今春から大きくフレッシュアップする松山市中心地区と道後地区、住民主体で遍路の里づくりを進める同市久谷地区、そして昨春西日本随一の常設劇場としてオープンし、ミュージカル「坊っちゃん」が話題となった坊っちゃん劇場を見学するなど、松山地区の地域文化を生かした新

たな観光資源を体験し、意見を交換しようというものだが、一方では参加者相互が仲良くなり、西瀬戸内海をワールドとした観光連携を見出すきっかけづくりになればと企画した。

## もてなしの心を生かして

ツアーは、各ポイントで専門家や行政担当者、住民代表がリレーでナビゲートするオリエンテーリング方式で進めたが、松山市長の中村時広氏や東温市長の高須賀功氏もスペシャル解説者として登場。参加者相互の親睦を深めようと利楽



第四十六番札所浄瑠璃寺でお遍路さんの作法を当NPO法人理事の中川重美さんが解説した

## 地域を結ぶ

### へんろ文化



3月25日には川瀬歌舞伎が披露され、超満員となった大黒座

温泉で開催した交流会には坊っちゃん劇場に出演するわらび座の役者さんたちが、得意の民俗伝統芸能を披露し、大喝采を誘った。広島、山口からの参加者は、住民と行政が一体となった観光振興の姿勢に驚いた様子。中でも遍路の里づくりを進める久谷地区のマンパワーは新鮮だったようだ。

ツアーを締めくくりに当たって催した意見交換会で、(財)中国地方総合研究センター理事長の標本功氏は「中国は関西と北九州経済が通過するところ。四国は遍路文化で培われた『もてなし』の心が息づ

くところ。広島を入口、松山を目的地に観光連携を進めてみては」と指針を投げかけた。また、利楽温泉や坊っちゃん劇場を運営する(株)ジョイアールト専務取締役の越智陽一氏は「地域文化を守る大切さと観光資源として開発する可能性、そして意義を強く感じた」とあらためて郷土の魅力を再認識したとか。また、呉観光ポランティア協会会長の山元利成氏や岩国地旅の会会長の杉山京子さんは、「西瀬戸沿岸の観光ポランティア相互の交流を促すことで連携が具体的に促進されるのでは」と意気込んでいた。

久谷地区では平成15年度から「坂小屋」や「大黒座」復興のほか、遍路道散策絵地図や案内板の設置など、当NPO法人がお手伝いしながら住民有志主体で遍路の里づくりに取り組む、本腰が入ってきた。専門家たちの視察は、自分たちなりの方法で取り組んできたこれまでの活動を客観的に考える絶好の機会。「自信とやる気」へとつながった。また、西瀬戸圏の観光仕

### 瀬戸内とも連携して

掛けた人たちとの交流は、大きな励みとなった。今後は、松山中心地区や道後地区ばかりでなく、瀬戸内海を回廊に呉市の大和ミュージアムや広島市の平和公園、日本三景宮島、岩国市の錦帯橋などとの連携も加味した遍路の里づくりを企画していく必要があるように思った。



当NPO法人理事の相原誠則氏の案内で旧遍路宿「坂小屋」へ。お接待を受ける参加者たち